平成30年度公開講座

北海道の地震と防災

ご挨拶

北海道は、豊かな大地の恵みがある一方で、これまでに多くの地震災害を経験している地域です。理学研究院附属地震火山研究観測センターでは、平成23年度より、地震に関する基礎科学から実学までの多方面にわたる内容を含んだ公開講座を開催しております。平成30年度公開講座「北海道の地震と防災」では、2日間5講座にわたって、様々な角度から家庭防災・地域防災につながる講義を行います。今回の公開講座では、地震に関する基礎知識、災害に関する情報の活用など、地震・津波対策に関する様々な内容を取り上げます。

本公開講座がご家庭や地域社会の防災力を高めるための一助となりましたら幸いです。

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長
高橋　浩晃

●概　要

■地震防災情報の活用

気象庁札幌管区気象台気象防災部／地震情報官　高橋　博

地震が発生した時、気象庁からは緊急地震速報や震度速報などの情報が次々に発表されます。身を守るためにあらかじめ知っておくことが大切な、それぞれの地震情報の意味や身につけていただきたい防災の知識について解説します。

■北海道周辺で発生する津波と予測

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター／教授　谷岡勇市郎

北海道太平洋側や日本海側の沿岸は過去に大きな津波に何度も襲われ、大きな被害を受けてきました。講義では津波の発生のしくみを理解するとともに、津波の被害を最小限に抑えるための方法を学びます。沿岸地域に住む人々が津波防災・減災を考える糸口になることを目指します。

■ケースメソッドで学ぶ地震防災

関西大学社会安全学部／副学部長　教授　林 能成

地震に遭遇した個人の目線で、過去の地震災害の中からいくつかのケースをとりあげます。その時どうすればよいか、もし前にさかのぼれるならば、どんなことをしていたらよかったかを参加者同士が話し合いながら学びます。少し昔の地震と最近の地震を比較することで、地震防災で重要なことは何かを考えます。

■北海道周辺に発生する地震

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター／教授　髙橋浩晃

北海道周辺では過去に何度も大地震が発生し大きな被害を受けてきました。講義では、地震発生が予想されている地震について学ぶことで、自分が住んでいる地域での防災を考える糸口となることを目指します。

■家庭でできる地震防災対策 －地震と共存する工学的防災対策について－

北海道大学大学院工学研究院／特任教授　岡田　成幸

「行く川のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。…世の中にある人とすみかと、またかくの如し。」方丈記の有名な書き出しです。この切ないまでの無常観はどこから来るのでしょう。日本は地震国です。地震が日本という自然環境と日本人の世界観を育て上げてきました。地震と共存せざるを得ない環境に、工学的防災はどう立ち向かっているのでしょう。そこから、私たち個人の立場からの防災のあり方も見えてきます。そして、工学はどこに向かっているのでしょう。少し難しいかもしれませんが、未来の防災についても、一緒に考えてみませんか。

修了証

村山　英宣　殿

あなたは、北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター主催の平成三十年度公開講座「北海道の地震と防災」の所定の講義を修了されました。

本講座の受講成果を活かし、今後の地域防災活動におけるご活躍を期待いたします。

平成三十年六月二十三日

北海道大学大学院理学研究院
附属地震火山研究観測センター
センター長　髙橋　浩晃